

平成30年8月2日発行
発行/日置市産業建設部農地整備課

トピック
○先進地研修の取組み

七月二日。台風近づく日置市中川に大隅半島は東串良から四十名のお客様が先進地研修に来訪されました。耕作面積千四百ヘクタールの東串良は肝属平野が広がる平地帯で黒潮の影響により温暖で雨が多くピーマンやキュウリといった施設園芸野菜が有名です。

午前十時から始まった研修は、中川ふるさと保全会会長の東善一さんの「まず現場を見てもらいたい」という熱い思いからイチゴのビニールハウスの実地研修から始まりました。収穫時期は終盤でしたが参加者は実ったイチゴをちぎっては嬉しそうに口に頬張り「ピーマンはこうはいかないからね。」と話されていました。

実地研修後は中川地区公民館で意見交換会を行いました。中川地区は平成24年度から毎年1、2名の就農者を増やしています。通常新規で農業を始めるには技術を得るまでに約2年の期間を有し生計が成り立つまで研修期間として市から補助を出す場合もあります。

しかし、中川地区では就農1年目から生計が成り立つように既存



農家が新規就農者を徹底的に指導します。この説明を聞いた東串良の中園代表は「農家は『教える』と言いながら肝心なことは教えないもんなあ」と驚いた様子でした。また、子どもたちにイチゴの収穫・加工を体験させる活動について、保全会の副会長比良さんは「子どもたちを巻き込む活動は、①学校の中に入る取組みと②中川地区に子どもたちを呼び込む取組みの2つのアプローチを行っています。またイチゴの収穫体験だけでなく、中川地区にイチゴが根付いた歴史やA・L・Tを招き世界のイチゴ事情について学ぶ機会を設け子どもたちの興味を広げています。農業が人間形成に与える影響を考えると日々の学習では学ぶことができない体験をさせていると思います。」と話します。

農業が人間形成に与える影響とは？

今回の研修には中川ふるさと保全会の役員5名のほか、青年部から7名、婦人部から4名の皆さんにご参加いただきました。保護者代表で平成24年度から新規参入した中村さんは「中川に来て草刈りや花壇の植栽等色々な活動があることに最初は戸惑いました。子どもたちは毎年イチゴの収穫体験を楽しみにしています。イチゴを持つち帰った子どもたちに、この体験はたくさんの方が関わってできていること、忙しい中農家さんが時間を割いて準備をしていることを伝えていきます。地域の人にいかん大事にされいるか感じてほしいです。」と話します。

農業体験を通じ親子の会話が広がっているように感じます。一つの体験から子どもたちはいろいろなことを感じとります。子どもたちが保全会の皆さんへ送ったお手紙の中に「楽しかった」という言葉が多く出てきました。子どもたちの楽しいの中には自分でイチゴを取った嬉しさも、イチゴが美味しかったことも、イチゴのお菓子作りで苦戦したこと、農家さん



が親身に教えてくれたことも含まれていると思います。その一つ一つを共有して広げてあげること。ここに人間形成のヒントがあると

中川ふるさと保全会の活動に「哲学あり」

中川ふるさと保全会は、活動に参加する一人一人が一つ一つの活動の意味をよく理解し意思疎通ができていられると思います。言葉にすれば簡単ですが容易なことではありません。何度も口でまた態度で伝えなければ全員の理解度を百パーセントに近づけることはできないでしょう。多面的機能支払交付金、通称水土里サークルの活動も同じです。日置市の本年度事業予算は一四二百万円あります。何故この事業を進めるのか。何故いま農地を守らなければならないのか。今一度皆さんと一緒に考えた

